

5月23日(土曜日)「ユダ王国の捕囚」

【新改訳 2017】

Ⅱ 列王記 25・1－30

「第五の月の七日—それは、バビロンの王ネブカデネザル王の第19年であった。—バビロン王の家来……がエルサレムに来て、主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き……ことごとく火で焼いた。」(8、9節)

イスラエルが北王国(十部族=イスラエル)と南王国(二部族=ユダ)に分裂したのは BC930年ごろでした。それから、北王国は BC721年ごろにアッシリアの捕囚となって滅び、今、南王国もバビロンの捕囚となり、ついにエルサレムと神殿は陥落してしまいました。BC586年とされています。

なんと厳粛なことではありませんか。選民でありながら、神と神のことばに聞き従うことをしないならば、将来はのろわれることになるという神の

警告のことは、王国全体についても成就することになったのです。

神は侮られる方でないことは歴史が繰り返し証明しています。このバビロン捕囚は、預言どおり70年間続きました。

～祈り～

主よ。あなたを侮る者とならないように守ってください。また現代でも、神を侮る国家は決して平和と繁栄を保つことができないことを知らせてください。

【学びのために】

このことの預言は、II列王記20・17、24・13、エシヤ27・21、22参照。

なお、ネブカデネザル王は、やがて、その高慢のゆえに神のさばきを受けています。ダニエル1-6章参照。